

会議録

会議の名称	令和6年度第5回西東京市立田無第三中学校建替協議会
開催日時	令和6年12月19日(木曜日)午前9時から
開催場所	田無庁舎5階502・503会議室
出席者	【委員】大久保会長、高橋副会長、加藤委員、山下委員、本田委員、橋爪委員、伊藤（俊）委員、藤江委員 （欠席）阿部委員、伊藤（慎）委員、瀬沼委員、大森委員 【事務局】岡本教育部特命担当部長、飯島副参与兼教育企画課長、佐々木教育企画課課長補佐兼企画調整係長、中屋教育企画課施設係主査、関澤教育企画課企画調整係主任 （欠席）栗林教育部主幹 【傍聴人】2人
議題	議題1 第4回会議の会議録について 議題2 田無第三中学校の将来像・建替コンセプトについて 議題3 田無第三中学校建替え後の整備諸室等について 議題4 その他
会議資料の名称	資料1 田無第三中学校の将来像・建替えコンセプト（案） 資料2 田無第三中学校建替え後の整備諸室等一覧（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
<開会> 議題1 第4回会議の会議録について 第4回会議の会議録内容について、各委員に異議がないことを確認し、第4回会議の会議録は承認された。 議題2 田無第三中学校の将来像・建替コンセプトについて ○事務局 （資料1について説明） ○会長 事務局より、田無第三中学校の将来像・建替コンセプトについて説明があった。ご質問を伺う。 ○委員 コンセプトの「安全性を兼ね備えた地域～」の1つ目に「連続性」とあるのが非常に良いと思う。複合する時に縦割りの棟をそのまま貼り付けた構造になる施設が多いが、地域と学校施設がつながっているのは良いと感じた。 多様性に加えて多世代といった横にも縦にもつながる表現にしてもよいと感じた。また「地球温暖化や気候変動に対応しながらも環境に配慮されたエコスクール」とあるが、エコスクールはそもそも気候変動に対応するものであるため、「対応しながらも」という表現に違和感を覚えた。同様に「近代的でありながら居住性・機能性・メンテナンス性に優れた施設設計」において、「近代的」と「居住性・機能性・メン	

テナンス性」は相反するものではないため、「近代的で～」として問題ない考える。

○事務局

相反する表現について修正する。またこれまでの会議で、「つながる」がキーワードになっているため、多様性だけではなく、多世代についても取り上げていきたいと考える。

○委員

1点目は「学校活動の見える化と地域の情報発信を考慮した施設設計」の「地域の情報発信」とは、「地域からの」と「地域への」のどちらの意味になるのか。「地域の核として」とすると、地域と学校の双方向から情報が行き交うイメージで捉えているが、「地域の」といったときは、その部分が文言として曖昧な感じがした。

2点目は「近代的でありながら～」の部分で、「近代的」という言葉自体が大分昔のイメージとなるため、「先進的」といった文言の方が良いと感じた。

3点目は「時代のニーズに応じた多様な学びができる学校づくり」のところで、いずれも学校教育で重要な部分を押さえられていると思う。その中で「横断的な学習」とは教科的な横断を示されていると思われるが、一番上位のコンセプトに「探究」という言葉が用いられていることから教科の学習の充実や教科における探究的な学びを少し意識していただきたい。

4点目としては「学校活動の見える化」は学校活動を地域に開いていくことだと思うが、一方で学校の中で行われていることの安心感、先生方にとっての働きやすさや生徒にとっての学びやすさといったことも前提とした見える化と思う。生徒や教師にとっての安心安全な学校施設というのもコンセプトに含めていただきたい。

○事務局

1点目の「地域の情報発信」について、「地域からの」「地域への」の両方をコンセプトとしている。

2点目の「近代的」の部分については機能性や使いやすさを重視しながら、「先進的」な学校を設計していきたいと考えている。

3点目の教科の学習の充実や教科における探究的な学びといった点をコンセプトに含めていくかについては検討をしていきたいと考える。

4点目の「学校活動の見える化」は、ひばりが丘中学校を建設した際にも挙げられていた項目となるが、学校内で生徒や教師が安心感を得られる場所を設けられるように検討していく。

○委員

「西原の自然を生かした～」のところについて、西原の自然を含めることはどの場で協議するものになるのか。本協議会にあたるのか、それとも別の協議会で協議するのか。そのようなところが分からないので、情報をいただきたい。

○事務局

学校を核としたまちづくりの複合化のプラン案を公共施設マネジメント課で進めているが、その中の一つとして田無第三中学校が公共施設としてあるため、そちらの案

を踏まえて検討を進めてきた。先週、公共施設マネジメント課で地域の皆さまのご意見を伺う場を設け、その意見をまとめた上で再度地域の皆さまに意見を聞き、プラン案を練り直していく予定となっている。公共施設マネジメント課で進めている複合化のプラン案がまとまった段階で、田無第三中学校建替協議会にも示され、意見を聞き、情報共有を図っていく予定である。

○委員

ユニバーサルデザインに関して、建替えた時期のデザインではなく、その後の10年20年30年と続くことを踏まえたデザインであることが今の段階で確認できると良いと考えた。また複合化では、個人単位での話が出るが、コミュニティとしての議論もしていく必要がある。いくつかの機能が集約されたときに、それがもたらす良さに着目すると同時に、中学校の機能をどうしていくかといった話も検討する必要がある。そのため、複合化が検討の中心になるのであれば、コミュニティデザインといった視点での検討が必要になると考える。

○事務局

現在、複合化する施設について、公共施設マネジメント課が市民の方に意見をいただいているところであり、今後地域の方が望まれている機能などを取りまとめてお伝えすることになる。

○副会長

コンセプトは具体的に書くと範囲が狭まり、大きく書くと色んな取り方ができ難いものである。「時代のニーズに応じた多様な学びができる学校づくり」の中の「横断的」について、私は世代を超えたといった捉え方をしたが、人によって捉え方が変わるので、事務局の想定しているものが分かる表現にした方が良いかと考える。また「学校活動の見える化」については、内容的な見える化、物理的な見える化の2つで大幅に変わってくる。そのため人によって捉え方が変わってくところは注意していく必要があると感じた。言葉としての使い方を大事にしつつ、皆さまから出た意見を、様々なところで示すことができるコンセプトに事務局として整理していただきたい。

○事務局

建替コンセプトは市が市民の方に示す文章であるため、誰にとっても分かりやすい文章になるようにしていきたいと考える。

○委員

コンセプト自体は色んな解釈ができることも一つの役割であると考え。具体的な内容の検討は、基本計画の次の段階で協議していくのでも良い。どこまでをコンセプトに入れて、どこからを次の段階で議論するかを判断していただきたい。

○委員

「部活動と地域利用を考慮した体育館とグラウンドの整備」の項目で体育館とグラウンドのみではなく、地域利用できる部屋（特別教室など）などもコンセプトに入れることはできないか。

○事務局

今後ゾーニングとセキュリティ対策の話が詰められていくと「横断的な学習を可能とする情報メディアセンターの構築と特別教室の有効活用」の項目で、特別教室の地域利用について示すことができるようになる。

議題3 田無第三中学校建替え後の整備諸室等について

○事務局

(資料2について説明)

○会長

事務局より、田無第三中学校建替え後の整備諸室等について説明があった。ご質問を伺う。

○委員

学校の方針として、一足制・二足制のどちらにするかは決まっているか。

○事務局

田無第三中学校として、一足制・二足制のどちらにするかはまだ決まっていない。

○委員

一足制にすることで面積を教室数コマ分減らすことができ、その分スペースを増やすことができる。

○委員

特別教室の「準備室含む」とある箇所について、準備室は特別教室それぞれに専属で設けられるのか。それとも共用として設けられるのかを教えてください。

○事務局

現在理科室については第一理科室、第二理科室として考えずに示している。そのため特別教室にそれぞれ専属の準備室を設けるといった検討はまだ行っていない。

○委員

1点目。少人数教室は習熟度別授業や学級数が増えた時の受け皿として使用することができる。またその他の授業と連携して使用することも多いため、少人数教室の面積も普通教室と同じ勘定でよいと考える。

2点目。エンカレッジルームに関してで、他自治体の事例においては不登校の子が様々なことを学べるように人数に比べて広く設計されている。また部屋が狭いと混み合いという不登校の要因を再現しかねないので、エンカレッジルームは1コマとしてもよいと考える。

3点目。視聴覚室の具体的な使い方を考えていただきたい。現在は教室にも視聴覚機能はあるため、視聴覚室ならではの機能（本格的な発表の場など）を考える必要がある。

STEAM 教育に力を入れる学校で、入口部分に工房を設けた事例もあるため、参考になるのではないかと。

板橋区の学校に良い例がある。職員室や学習空間の作り方に色々な新しい工夫を取り入れており、建替えの際のヒントを得られるのではないかな。

○事務局

西東京市内のほとんどの学校がかなり老朽化しており、かつ児童数も増えており教室数も不足している。今後の児童数の推計も勘案しながら設計を進めていくが、今後エンカレッジルームをはじめとした色々な子どもに対応した諸室は児童・生徒数に応じて設ける・設けないとするのではなく、必要諸室として設けることと考えている。これから建替えを行っていく学校については、こうした内容を踏まえて計画していく。「地域に開かれた学校」に関しても、何をもって「開かれた学校」なのかについても検討していく。

○委員

エンカレッジルームは教育の部屋になるため、ジャンルを「管理諸室等」ではなく、「普通教室等」に含めていただきたい。

○委員

生徒たちの学びが深まり充実していくことも大事であるが、先生方にとって、いかに働きやすい職場になるかが何よりも大事と考えている。職員室にゆとりを持たせたり、自席以外での作業や懇談が重要になる。また教材研究といった授業に係る作業を行うスペースを設ける必要があると考える。国語や社会といった一覧表に記載のない教科においても教材研究に使用できる部屋があれば良いと考える。

複数の中学校が合併するものであるが、令和7年に開校する静岡県伊豆市の事例も参考になると思う。

○副会長

本日提示していただいた一覧表は地域の人が利用する部屋ではなく、学校として利用する諸室をまとめたという認識である。教室の稼働率についての考え方で、稼働率の低い部屋については地域利用がしやすい場所に設置するなど、学校利用／地域利用の重なる部分の教室として設けることもできるのではないかと考える。

○事務局

今後学校の地域利用における統一的な運営基準を作成した上で、学校と地域の方が施設を利用することになっていくと思われる。こちらの運営基準を作成する際の参考とさせていただく。

議題4 その他

○事務局

現在、給食室の検討および特別支援学級の検討、学校施設の地域利用の統一的な運営基準の検討について、皆さまにお示しできる状況になり次第、ご意見を頂戴したいと考えている。

○事務局

本日の議事要旨はこれまでの会議と同様に後日メールで送付させていただき、委員確認後の第6回会議で了承を得て公開とさせていただきます。

○委員

前回の会議で出た田無第三中学校の建替え用地の件で、けやき小学校保護者の会役員会で意見を聞いたところ、体育の授業や部活動が制限されることが一番の心配事であった。何点か保護者より意見があったので、紹介する。

①西原総合教育施設に田無第三中学校の機能を仮移設し、その間に田無第三中学校を建替えする案。

②西原総合教育施設のグラウンドにプレハブの仮設校舎を設け、田無第三中学校の建替えの時でも、現在の田無第三中学校のグラウンドを使用する案。

③西原総合教育施設の敷地に田無第三中学校のみを建てる案。(公共施設の複合化を行わないで、建替え後田無第三中学校の現在の敷地に複合化施設を建てる。)

④田無第三中学校の建替え中は越境したい生徒・保護者が増えることが予想されるため、周囲の中学校の越境枠を増やして欲しい。

建替え場所については子ども第一で検討していただきたい。西原総合教育施設に建てる場合は、現在利用している団体に移動してもらうなどの影響が出てくるが、地域利用よりは学校環境を優先していただきたいと考える。中学校の親子給食については、給食を作る小学校が学校都合で休みになる際に、中学校の給食もなくなるため、お弁当持参の日が年に数回ある。その数回も保護者にとって負担となるため、自校での給食ができるように検討をしていただきたい。

<閉会>